

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

教育振興運動～自主防災組織を強化して自分達で地域を守ろう～（岩手県一関市）

取組の基本理念

大震災津波の被害が大きかった被災地で取り組まれている住民を中心とした地域づくり等を学び、防災への意識向上を図り地域力を高める。

事業概要

市内31公民館において、震災に係る各種勉強会や防災、心のケア、地域コミュニティ再生に関わる講座講演会を実施する。

取組の概要

○防災講演会

大震災津波の被害が大きかった陸前高田市小友地区コミュニティ推進協議会事務局長による体験談「小友地区 津波とその後」と題しての講演を聞き、復興には地域のつながりが大切であることを実感した。



○消防署消防士長による防災講話及び危険予知訓練



事故や災害を未然に防ぐことを目的に、作業に潜む危険を予想し指摘しあう訓練を実施。セミナー参加者が、指定された絵から予想される危険を出し合い、グループ代表が発表して危険予知の考え方を学んだ。

○沿岸被災地で地域づくりを学ぶ

沿岸被災地陸前高田市を訪れ、市の消防長から「津波被害について」、気仙町けんか七夕鉄砲町祭組の千葉さんから「けんか七夕復活を通してのまちづくり」のお話を聞いた。その後、沿岸被災地の住民の方々とのディスカッションを行い、地域づくりに取り組む姿勢を学んだ。地域での課題について改めて考える機会となった。



○防災機器の取扱い説明会及び訓練

緊急時に有効に活用できるよう防災機器の取扱い説明会及び訓練を体験し、地域防災や家庭内防災の意識を高めるとともに、参加者間の交流を図った。



成果

- ・今後起こり得る災害等に備え、地域住民同士が学びを通じて交流を深め、地域文化やコミュニティ、親子の絆などを見つめなおし、実行に移す機運を高める機会となった。
- ・沿岸被災地の住民の方々から実際の話聞き、人との繋がり的重要性を認識できた。
- ・公民館による多様な防災関連事業により、地域住民が自分達の手で地域を守ろうという意識を高める機会となった。